

耳鼻咽喉科研修

〔到達目標〕

《はじめに》

耳鼻咽喉科医が取り扱う領域は、頭蓋底と眼窩底から頸部に至る幅広いものです。また、聴覚障害や発声言語障害といったヒトとして欠くことのできないコミュニケーション障害の多くに耳鼻咽喉科医が主体となって対応しています。よくいわれる耳鼻科は正確ではなく、実は耳鼻咽喉科・頭頸部外科が本来の呼称です。しかし残念なことに新しく耳鼻咽喉科医、頭頸部外科医になろうとする人たちは減少しています。新たに耳鼻咽喉科医を希望する人にとっては、将来の選択肢が広がっていると言えます。ぜひ耳鼻咽喉科研修を通して耳鼻咽喉科・頭頸部外科の魅力を見直していただき、多くの耳鼻咽喉科・頭頸部外科医が生まれてくることを心から期待しています。

■GIO (一般目標)

耳鼻咽喉科領域の基本知識、検査、手技を広く習得すると共に、鑑別診断と治療方針についての知識を得る事を目標とする。特に耳鼻咽喉科の救急疾患については適切な判断ができるようにし、救急処置が行えるようにする。また、手術入院患者の管理を通して、耳鼻咽喉科の特殊性を知る。

■SBO (行動目標)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 耳鼻咽喉科の診療 | (2) 耳鼻咽喉科領域の精密検査 |
| ①問診、カルテの記載 | ①顔面神経検査 |
| ②ヘッドライトによる視診 | ②嗅覚検査 |
| ③顕微鏡による鼓膜の観察、処置 | ③鼻咽腔内視鏡検査 |
| ④耳、鼻、咽腔からの細菌検査 | ④平衡機能検査 |
| ⑤間接喉頭鏡、後鼻鏡検査 | ⑤標準純音聴力検査 |
| ⑥顔面表情筋スコア | ⑥インピーダンスオージオメトリー |
| ⑦画像診断 | ⑦超音波検査 |
| ⑧耳垢除去 | ⑧嚥下機能検査 |
| ⑨鼻出血止血 | ⑨味覚検査 |
| | (3) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の手術 |
| | ①耳鼻咽喉科領域の手術器械の理解 |
| | ②鼻咽腔口腔内手術操作 |
| | ③気道確保と口腔、喉頭展開 |

■LS (方略)

- ①副担当医として外来、入院担当となり研修を行う。
- ②週間予定：月から金曜日午前外来診療。月曜日、水曜日、金曜日午後は手術助手。その他平日午後は検査。
- ③手術日午前は翌週の手術症例検討を行う。

■Ev (評価)

- ①自己評価：EPOCによる形式的評価
- ②指導医による評価：EPOCによる形成的評価と総括的評価
- ③看護部・コメディカルによる360°評価：独自形式による形成的評価